

2021年度 第2回8月阪大本番レベル模試地理 採点基準

1 単答記述問題

誤字，脱字，漢字間違いは0点。

2 論述問題

①「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。

② 以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

3 共通減点基準

① 加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは1点減点。

② 下線の付け忘れは1点減点。

③ 指定用語不使用は1点減点。

④ 字数オーバーは1点減点。

*減点しなくていい要素，その他の注意

① 地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇔スロベニア，パキスタン⇔パーキスタンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はしない。

② 加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は0点だが，減点はしない。

③ 加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。

④ 文章が未完のものも減点しない。

4 採点記号について

1. <□□□□> 加点ポイント
2. □□□□× 事実に誤認あり
3. □□✓□□ 誤字あり／脱字あり

5 設問別加点基準

- 1) 部分は必須キーワードであり、この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。
- 2) ○○／△△ は「○○でも△△でも可」を意味する。
- 3) 「② (①の説明として)」は、加点ポイント①を正解していなくても、加点ポイント②に該当すれば加点する。
- 4) 「 A 」が「 B 」→1点 は、「 A 」と「 B 」の両方の要素があれば1点加点する。
- 5) [指定語句] は、文中のどこかで使用していれば減点しない。

(I) 配点 50 点

問1 20 点

Aは、原油輸出で得た資金によるビル建設の盛んなペルシャ湾岸の産油国である。人口爆発で余剰労働力の多い南アジア等から建設労働者が移住し、男性の数が女性を大きく上回る。Bは、子供を農業の労働力とみなす傾向が強い発展途上国である。肉体労働に向く男子を複数産むまで出産を続ける親が多く、男性の数が女性を上回る。Cは、高齢者の多い先進国である。女性の平均寿命は男性より長く、高齢化すると女性の数が男性を上回る。

【加点ポイント】

i) Aについて (8点)

- ① (性比の特徴) 男性の数が女性を大きく上回る／性比が突出して高い →2点
- ② (国の共通点) 産油国／石油の輸出国／原油由来の資金が多い →2点
(※「中東／ペルシャ湾岸／西アジア」のみ →1点)
- ③ (①の背景) 男性の労働者が多く移住／男性労働者を多く受け入れ／男性の出稼ぎ者が多い →1点
- ④ (③の用途) 建設／建築／リゾート開発／インフラ整備 →2点
- ⑤ (③のおもな出身地) 南アジア／東南アジア／インドなど →1点

ii) Bについて (7点)

- ① (性比の特徴) 男性の数が女性を上回る／男性が女性より多い／性比が100を超える →2点
- ② (国の共通点) 発展途上国／農業が中心／第一次産業が盛ん →2点
- ③ (②により) 子供を労働力とみなす／男子が働き手となる →2点
- ④ (①の背景) 男子を産むまで出産する／男児を望む親が多い →1点

iii) Cについて (5点)

- ① (性比の特徴) 女性の数が男性を上回る／女性が男性より多い／性比が100未満 →2点
- ② (国の共通点) 先進国／高齢化が進む／高齢者が多い →2点
- ③ (①の背景) 女性の平均寿命は男性より長い／女性は長生きである →1点

問2 15点

当初は出産が奨励されたが人口爆発の状態となり、一人っ子政策等の人口抑制策が導入された。その結果、出生率は低下したが、戸籍を持たない子供の増加や、一人っ子政策が厳格に適用された都市部における少子高齢化等の問題が顕著になった。そのため、近年一人っ子政策は廃止され、第二子まで出産が認められるようになった。

【加点ポイント】

i) 当初(1949年～)の政策について(5点)

- ① 出産が奨励された/人口抑制の政策は無かった →2点
- ② (①の結果)人口爆発がおこった/急速に人口が増えた →3点

ii) 1970年代以降(7点)

① (人口抑制策として)

- ・まず晩婚/晩産/少子 が奨励された
- ・一人っ子政策が導入された
- ・一人っ子政策は少数民族や農村部などで例外が認められた
/一人っ子政策は都市部では厳格に適用された
- ・一人っ子政策は違反すると罰金が課された

} 1つ2点
4点まで

② (①の結果)少子高齢化が進行 →2点 (※「少子化」のみ →1点)

③ (①の結果)戸籍を持たない子供の増加/黒孩子(ヘイハイズ)の増加
/小皇帝(わがままな一人っ子)の増加 →1点

iii) 2016年から(3点)

- ① 一人っ子政策は廃止された/二人っ子政策になった
/第二子までの出産が認められるようになった →3点

問3 15点

Xのある阪神工業地帯は金属、石油化学、電気機械等の工業が盛んであるが、第一次石油危機後の原燃料費の高騰でそれらが斜陽化すると、1970年代には人口が増加から減少に転じた。一方、Yのある中京工業地帯は、下請けの部品工場等が集積する創業地周辺に立地し続ける自動車工業が発展したため、Yの人口は増え続けた。

【加点ポイント】

i) Xについて(8点)

- ① (人口の変化)1970年頃までは増加した →1点
- ② (人口の変化)1970年以降は減少した →1点
- ③ (工業地帯の特徴)金属工業/石油化学工業/電気機械工業/重化学工業 等が盛ん →2点
- ④ (変化の契機)石油危機/第一次石油危機/オイルショック →2点
- ⑤ (④により)原燃料費の高騰/原油の高騰/③が斜陽化 →2点

ii) Yについて(7点)

- ① (人口の変化)増え続けている/増加している →1点
- ② (工業地帯の特徴)自動車工業が盛ん →2点
- ③ (②の特徴)下請けの部品工場等が集積する/関連会社が集積する →2点

- ④ (③により) 創業地周辺に立地し続ける/工場を移転しづらい →2点

(II) 配点 50点

問1 20点

かつて東南アジアには、先進国に一次産品を輸出するモノカルチャー経済の国が多かったが、税制優遇のある輸出加工区に外国資本が進出し、工業製品中心の輸出構造となった。また、結成当時はインドシナ半島の社会主義勢力に対抗する軍事同盟だったASEANが、AFTA、AECを発足させるなど貿易の自由化と経済協力を進める国際機関に変化し、自動車部品を互いに供給し合う国際分業体制を構築するなど、域内貿易も活発化した。

【加点ポイント】

i) かつての東南アジアの貿易について (5点)

- ① (輸出品目として) 一次産品/農産物/原燃料 →3点
② (輸出先等として) 先進国に輸出/垂直貿易であった →2点

ii) 近年の東南アジアの貿易について (5点)

- ① (輸出品目として) 工業製品/機械類 →3点
② (輸出先等として) ASEAN域内が増えた →2点

iii) ASEANについて (5点)

- ① (結成当時の方向性) 社会主義勢力に対抗/軍事同盟色が濃い/安全保障を主目的 →2点
② (近年の方向性) 域内貿易の自由化/関税の廃止/経済協力 →3点

iv) i) ~ iii) の背景 (5点)

- ① 輸出加工区を設置/税制優遇措置を設定 →2点
② 外国資本を誘致/外国の資本と技術を導入 →1点
③ AFTA (AEC) を発足させた/経済共同体に発展した
/国際分業体制を構築/域内で部品を供給し合う →2点

問2 15点

マレー系等の先住民の所得水準が中国系やインド系より低いマレーシアは、進学や雇用などで先住民を優遇するブミプトラ政策を導入したが、格差は解消していない。計画経済が行き詰まったベトナムは、社会主義を維持しつつ市場経済を取り入れるドイモイを始め、人々の勤労意欲が高まり、農業や工業の生産性が劇的に向上した。

【加点ポイント】(※合計で15点まで)

i) ブミプトラ政策について (8点)

- ① (導入国) マレーシア →2点
② (政策の内容) 先住民を優遇する/マレー系を優遇する →2点
③ (政策の背景) 中国系 (インド系) より先住民 (マレー系) の所得水準が低い
/中国系 (インド系) が経済の実権を握る
/中国系と先住民 (マレー系) の間に経済格差がある →2点

- ④ (政策の結果) 格差は解消していない／一部のマレー系のみ高所得者となった
／中国系 (インド系) の不満が高まった
／中国系の多いシンガポールが独立した →2点

ii) ドイモイについて (8点)

- ① (導入国) ベトナム →2点
② (政策の内容) 社会主義 (計画経済) を維持しつつ市場経済を取り入れる →2点
③ (政策の背景) 計画経済が行き詰まった／生産性が停滞した／経済発展が遅れた →2点
④ (政策の結果) 人々の勤労意欲が高まった／農業や工業の生産性が向上した／工業が発展した
／外資の導入が進んだ／米やコーヒー豆の輸出国となった →2点

問3 15点

旧スペイン領であるため避妊と中絶に否定的なカトリック信者が多く、多産の傾向が強く人口爆発が生じている。ゆえに職を求めて農村からマニラに流入する余剰労働力が多く、スラム、ホームレス、ストリートチルドレンの増加が深刻である。また、ミンダナオ島には古くに伝播したイスラームの信者が多く、独立運動がみられる。

【加点ポイント】

i) 都市問題について (10点)

- ① マニラに人口が集中する／マニラがプライメートシティ (首位都市) となっている →2点
② (①により) スラム／ホームレス／ストリートチルドレン が増加
／インフォーマルセクターの増加／スモーキーマウンテンの点在 →2点
③ (①の背景) 多産の傾向が続いている／人口爆発が起きている →2点
④ (②の要因) カトリック信者が多い／カトリック信者は多産である
／カトリックは避妊と中絶に否定的である →2点
⑤ (その他の加点ポイント) 旧スペイン領である (ためカトリック信者が多い)
／マニラに職を求めて流入する人口が多い
／農村の余剰労働力が多い →2点

ii) 独立運動について (5点)

- ① (場所) ミンダナオ島／南部のモロ →2点 (※「南部／モロ族」のみ →1点)
② (内容) イスラームの信者 (ムスリム) が独立運動を起こした →3点